

山内忠敏さん (きょうとこどもの城づくりフォーラム講師)

藤の木子どもキッチン 代表 藤の木セカンドハウス 代表理事
藤ノ木学区民生児童委員協議会 前会長 京都市伏見区藤ノ木学区社会福祉協議会会長



藤の木セカンドハウス

京都市・向島地域で、子どもと若者の拠点づくりをしています。

地域で子どもや若者とかかわる中で、彼ら／彼女らを取り巻く環境が時時刻々と変化していると感じています。そうした中で、子どもや若者が育つための土壌が脆弱になっているように思います。社会では、貧困や格差、虐待、DV、ネグレクト、孤独・孤立といった言葉が子どもや若者の「生きづらさ」として聞くようになって久しいです。しかし、こうした状況は子どもと若者に限った問題ではなく、大人もまた同様の「生きづらさ」をかかえて生きているように思います。そうした社会において、子どもや若者が「自分らしくいる」ことがどれくらいできているだろうか、と思うことがあります。また、少しでも、彼ら／彼女らが「自分らしくいる」ことが出来る場が地域の中にあつたら、彼ら／彼女らの生活はより豊かなものになるのだろうとも思います。それだけでなく、そのような場が地域にあることは、この社会に生きる大人にとってもひとつの希望になるのではないかと思います。

藤の木セカンドハウスはそうした社会のなかにおいて、小さな一灯を灯し続けようと子ども食堂や若者食堂といった事業をニュータウンの一室で始めました。

わたしたち一人ひとりには非力ですが、小さな力を結集して、これらの諸課題に取り組んでまいります。

(藤の木セカンドハウス HP「代表挨拶」より)

市営住宅の空き部屋を「子ども食堂」に活用する取り組みが、京都市内で始まっている。入居者の高齢化で空き部屋が増え、地域コミュニティーの維持が難しくなる中、子どもたちの笑顔が地域の新たな輪をつなごうとしている。

(毎日新聞 2021年12月23日)